

# シリーズ：進化し続ける産総研のコーディネーション活動(第46回)

## 金融を巻き込め！(No.2) ～産学官「金」連携の広がり～

イノベーションコーディネータ いけだ まいち  
池田 喜一

### コーディネーションの醍醐味

以前に(株)商工組合中央金庫からの紹介で、「ストーブの燃焼確認のためのCO<sub>2</sub>センサーの感度を向上できないか？」との中小企業からの技術相談がありました。具体的内容は申せませんが、その感度を上げる工夫をして特許を取り商品化しました。そこに至るまで、アイデアを出しては何度も作り直すため資金を使い、材料を変更すると強度が出ないなどのジレンマを経て、「これでいきましょう」となったときの感動はひとしおで、これぞコーディネーションの醍醐味だと思いました。

### 産学官「金」の連携の広がり

さて、商工中金との連携は、2007年4月、産総研との協力協定の調印からスタートしました。その連携活動は、技術相談、企業訪問、講演会、連絡協議会など幅広いものです。当初は技術相談や企業訪問が多かったのですが、なかなか成果に結びつきませんでした。

また、中小企業に対して産総研の知名度は低く、商工中金が抱える各支店のユース会で行った講演では、産総研を知ってもらうことに重点を置き、“気楽な産総研、敷居を低くした産総研”をPRして回りました。その効果があり、少しずつではありますが知名度は上がってきていると思います。

次に、産学官「金」の連携が全国的に広まっている様子を簡単に紹介します。

### 地域金融機関との連携

地域センターと金融機関とのかかわりを図に示します。ここでは、各センターが最初にコンタクトをもった金融機関をプロットしています。関西センターは、かなり早い時期から“IS銀行”との連携が進んでいます。そこで特出して



商工中金ユース会で講演する筆者

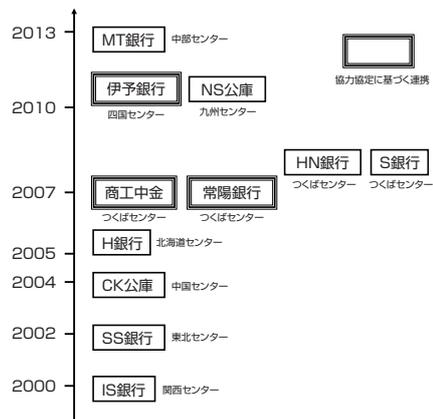
るのは、銀行の資金をもとに中小企業のための補助金の審査を行い、新たな研究開発を実施している点です。よい連携もずいぶん出ているようです。

また、北海道センターはH銀行との連携のもと「ものづくりフェア」での出展が恒例になっており、東北センターはSS銀行との関係が深く、「(社)東北ニュービジネス協議会」などで意見交換を行っています。中部センターはMT銀行やHG銀行などとの連携をもって展示会でのパネル出展や技術相談を受けています。中国センターは「技術交流サロン」でHR銀行などの協力を得ています。四国センターは2年前に伊予銀行と協力協定を結び活発な活動を行っており、「ものづくり企業相談会」では多くの技術相談が寄せられています。また、九州センターはNS公庫や商工中金と、少しずつではありますが連携活動を始めています。

### 新しい活動の提案

企業の要望は“いかにして開発資金を提供してもらえるか”です。大企業とは違い中小企業はゆとりある予算は少ないですが、課題を解決する熱意には凄いものがあります。一方、産総研は、企業の研究開発に対する直接の資金協力はできませんが、サポインやA-STEPなどの外部資金の獲得には積極的に協力ができます。

私は金融機関で小口の補助金が作れないかと考えています。金融機関のネットワークを使い、研究に意欲ある企業からの課題を産総研に相談し、対応可能な研究者に結びつけ、その研究資金を提供してもらえるような、中小企業に対する支援ができないかと思っています。「念ずれば叶う」を信念に、これからも金融機関との連携を大切にしていきたいと思っています。



地域センターと金融機関とのかかわり